

民俗学者
齊藤 壽胤さん
さいとう じゅいん

【プロフィール】
秋田市雄和生まれ。日本民俗経済学会理事。神道教学研究会順考学会会長。平田篤胤佐藤信淵研究所特別研究員。秋田県民俗芸能協会会長。鶴ヶ崎神社宮司

昔の人々が気付き伝えてきたこと

それは先人たちからの贈り物

生活文化全般にわたって人々が伝えてきた風習や知識を明らかにする、民俗学という学問がある。秋田の暮らしの中にある不思議を研究し続けているのが、秋田市在住の齊藤壽胤さんだ。

「物心ついた頃から、身の回りのこと一つ一つが気になる子どもでした。民俗学を本格的に学び始めたのは大学の時。神職の家に生まれたこともあり、神道を学ぼうと大学に入ったのですが、次第に日本の古くからの風習の謎に強い興味を抱くようになりました。例えば、元旦にお餅を食べる地域があれば、とろろご飯を食べる地域もあるのは、なぜなのか。また、昔は左利きがほとんどいないのはなぜなのか。そんな日々の暮らしの中にある習わしの理由を知りたいと思ったのです」

民俗学に答えを導く教科書はない。先人たちが残したわずかな記録や言い伝えが、謎をひも解く手掛かりなのだという。「全国各地、時には海外にも足を運び、現地の人々からお話を聞く。そうやって、少しずつ答えに近づいていくのです。例えば冷蔵庫のない時代、どうやって食べ物を保存していたのか。予防薬などがない時代にどのように病気を回避してきたのか。それは何気ない風習や地域の文化に隠されています。一人一人から話を聞いたり、一冊ずつ書物を読んだりと時間をかけて研究を重ね、いくつかの答えを導き出していく。長いスパンが必要ですが、その分やりがいのある大きな学問ですね。すぐに結果がでなくとも、いつか先人たちの知恵を現代に活かすことが目標です」

齊藤さんが民俗学に携わって、半世紀になろうとしている。「これほど長い時間を費やしても、まだ道半ば。知りたいことがたくさんあります。今後追求していきたいのは、お墓のこと。最近では合葬墓、風葬、水葬など、時代の変化とともにお墓への意識が変わってきていることが気になります。確かに合理的である一方、先人たちが築き上げてきた想いとは違う気がしています。死との向き合い方をいま一度見直して、学問として提唱していきたいですね」

「民俗学は私たちの知恵になるだけでなく、そこに住む人々の生きる自信にもつながるもの。先人たちはなぜ長い間そういうことをしてきたのか。一つの文化的足跡を解き明かすたびに、先人たちの偉大さに気付くのです。よく『秋田には何も無い、つまらない』と嘆く声を聞きますが、それは本当に悲しいこと。先人たちがやってきたことを立派だったと思えることで、この土地に生まれた誇りと自信がみなぎってくるのではないのでしょうか。そうしたら、秋田はもっと面白くなるはず」。民俗学は先人たちからの贈り物。齊藤さんの探求はこれからもまだまだ続く。